

令和2年度 3学期終業式「訓話」（令和3年3月19日）

新潟県立長岡高等学校長

宮田 佳 則

皆さんおはようございます。今日はいよいよ今年度 最後の終業式を迎えました。

1年前を思い出すと、昨今の頃は、新型コロナウイルスによる臨時休業期間中で、終業式も離任式も中止という状況でした。それからあっという間に1年が経ったような気がします。この1年間は、学校全体の様々な取組を例年どおりに行うことができませんでした。しかし、皆さんは、限られた条件の中でも前向きに学校生活を過ごし、各自の持ち場で、最大限の成果をあげてきたように思います。素晴らしいことだと思います。

さて、昨日、この春 大学に合格した卒業生たちの話を聞く会がありましたね。1年後、2年後、今度は皆さんが本校を卒業し、次の段階へステップアップしていくことになります。そこで、今日は、皆さんの進路に関連したお話をします。

長岡高校の卒業生で社会に大きく貢献をした人は大勢おいでですが、今日はその中から一人について紹介します。それは、人類に貢献したといっても良いかもしれません。昭和29年 長岡高校 卒業の皆さんの大先輩で、昨年4月に84歳で惜しまれながら亡くなられた、「青柳卓雄」さんという人です。昨年、新潟日報などに記事も載りましたので、皆さんの中で見た人もいるかもしれません。

さて、青柳卓雄さんは何をした人かという、現在、世界中の医療現場で使われている、パルスオキシメーターの原理を発明した人です。パルスオキシメーターとは、指をこう、パクッと挟むように、小さなホチキスみたいな形の装置をつけて、瞬時に動脈の血液中の酸素飽和度を測ることができる機械です。ずっと付けっぱなしにして、リアルタイムで長時間モニタリングすることもできます。

実際に血液を採らずに測定できるってすごいと思いませんか？ 皆さんの中にも風邪をひいたり咳がひどくて医者にかかったときに、指先をパクッと、「あー、98だから問題ないね」とかいうようなことがあった人もいないでしょうか。

青柳さんは、長岡高校から新潟大学工学部に進み、島津製作所という会社を経て、医療用の電子機器の開発に関わる仕事を希望して、日本光電という会社に移ります。そこで、様々な実験から、皮膚の上から光を当てることによって、血液中の酸素飽和度を測定できるしくみを発見し、昭和49年に学会で発表し、その後 特許を得ます。

パルスオキシメーターは、その後、日本や米国などの国内外の多くの研究者や企業によりさらに研究・開発が進み、現在では、新生児や、救急搬送中の人、手術中や呼吸器関係の病気の人、睡眠時無呼吸症候群の人、それから、現在の新型コロナウイルス感染症の治療のときなど、様々な場面での血中酸素濃度のモニタリングに、世界中で利用されています。

青柳さんは、国内外で多くの表彰を受けましたが、昨年、お亡くなりになった際には、在日アメリカ大使館が公式ツイッターに追悼文を載せたり、アメリカのニューヨークタイムズ、ワシントンポスト、ウォールストリートジャーナルなどが追悼記事を載せたそうです。

さて、青柳卓雄さんの紹介から、私が皆さんに望むことを2つ言います。

1つめは、皆さんに、志を高く、というか大きく持ってほしいということです。

長岡高校の教育方針の中に、「世界を舞台に指導的役割を果たす」という台詞があります。また、先日の卒業式の式辞で、私は卒業生に、「生涯勉強、生涯挑戦、生涯社会貢献」と言いました。これらは、決して大げさなことではなく、皆さんの先輩で、世界を舞台に活躍している人は大勢います。

青柳さんの業績も大きな社会貢献ですが、別の例では、例えば、皆さんの大先輩、長岡高校 昭和44年卒業生の有志の会では、約20年前にカンボジアに学校を2校建設し、その後も現在に至るまで、きめ細かな支援活動を行っています。

先輩があちこちで活躍しているのだから、将来の皆さんにもできます。ぜひ、志を高く、大きく持ちましょう。

皆さんに望むことの2つめは、将来「何になるか」も大事ですが、「何をするか」も意識してください。

例を挙げれば、医療に関係して人の命を救いたい、と思えば、直接救うのは、もちろん医師や看護師の医療関係者です。でも、理学や工学を学んで医療機器を開発すれば、世界中の多くの人を救うことになります。新薬の開発も同様です。文系に進んだとしても、政治家になって、医療に関わる法律を整備することもできます。公務員になって、医療行政を進めることもできます。作家や報道に関わり、医療に関わるテーマを取り上げ、一般の人々の医療についての関心を高めることもできます。道は1つではありません。

つまり、「何になるか」のみでは、その職に就いた時点で、その先の目標が失われるわけですが、「何をするか」を意識すれば、どんな道に進んだとしても、その道で、自

分のしたいことに関わる方法は、いくらでもあることに気づいてほしいのです。

他の例を2, 3上げれば、環境問題への対応や、日本の少子化問題への対応、日本は人口減少ですが世界は人口爆発ですから、今後の食糧問題への対応など、皆さんがどんな道に進んだとしても、それらに関わろうと思えば関わる方法はあるはずです。何事についても、そういうことです。

「何をするか」は、すぐには定まらないかもしれません。また、どんどん変わるかもしれません。大学生になってから定まってもいいのです。ただ、時々、将来「何をするか」を意識することに意義があると考えてください。

最後になります。明日から春休みです。新しい年度を迎え、新しい学年となるこの春休みは、自分の進路を前向きに考えるいい機会です。もちろん、日々の勉強もとても大切です。生涯勉強です。

それと共に10年後、20年後の自分を、少し大きく、何事もうまく行って という想定でいいので出来過ぎなくらい良い方向で、考える機会としてください。夢を大きく。

そして、チャレンジ精神をもって新年度を迎えられるようにしてほしいと思います。生涯挑戦、生涯社会貢献です。

ここにいる長高生全員が、元気で、いい顔で新年度を迎えるよう願っています。

それでは、以上で今日の私の話を終わります。